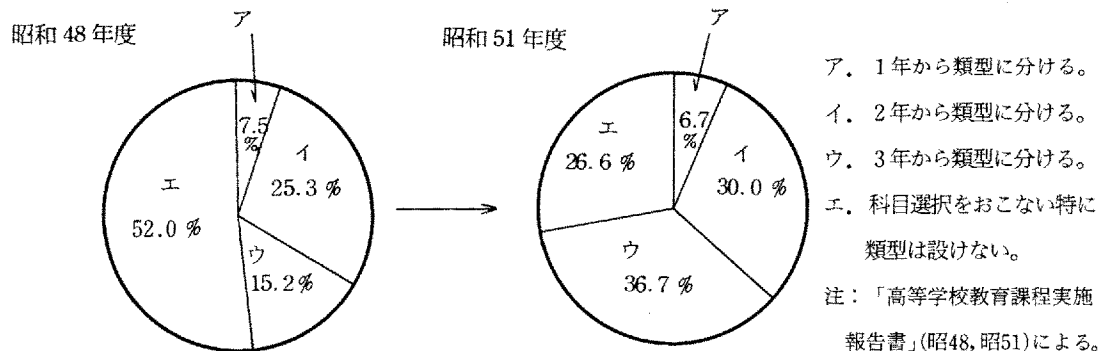


図2-4-34 教育課程設置の推移



増加単位数を設定して能力、適性に即した指導の個別化をめざしている。

また、生徒と進路、適性の多様化に対応するため履修の類型を多くしたり、多様な教科選択のコースを設定したりしているが、その方向での努力が必要な学校が少なくない(図2-4-34)。

イ. 各教科以外の教育活動

ホームルームは、昭和51年度平均で第1学年39時間、第2学年39時間、第3学年36時間実施している。

クラブ活動は、各学年とも基準の35時間をようやく確保している現状である。また、生徒会活動、学校行事の時間は、学校によってかなりの差がみられる。同一学校内でも学年によって大きな差が認められる(第1学年平均77.2時間、第2学年平均102.9時間、第3学年平均77.8時間「高等学校教育課程実施報告」(昭51)の集計による)。

これは、課程別による差異、その年度に文化祭、学校祭が持たれたかどうか、修学旅行が実施された学年かどうかなど様々な要因によるものと考えられる。従って、各教科以外の教育活動について、なお、その適正実施のための検討が必要である。

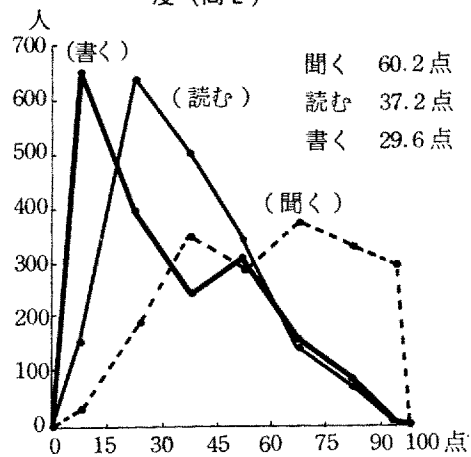
(3) 教育方法

高等学校進学率上昇の中で、生徒の学習到達度は、全国的規模の調査(図2-4-35)からみて、幅広い分布を示しており特に、学習到達度の低い生徒の多いことがわかる。

表2-4-13からみると、高校生のおよそ3分の1が、学習についての悩みを持っていることを示している。

学習に対して悩みを持ち、低い学習成果を示す生徒が多い実状の中で、教師の指導方法を示す表2-4-14によれば、一斉指導の学習形態の中で、教師の講義、一問一答を中心として授業を進めているのが44%、一斉指導の学習形態の中で演習、作業学習による個別学習を組み込んでいるのが49%を示している。

図2-4-35 ある教科における学習到達度(高2)



注: 1. 「国立教育研究所調査」(昭51)による。
2. 各内容領域ごとの成績を100点満点に換算。